

令和7年12月5日（金）【秩父市長 職員向けメッセージ】

皆さま、おはようございます。

秩父市長の清野和彦です。

12月に入り、今年もいよいよ師走の時期となりました。“師走”という言葉は、昔から「師（お坊さん）でさえ走り回るほど忙しい月」という意味を持つといわれています。職員の皆さんも日々の業務に加え、様々な来年に向けた準備など、何かと忙しい時期を迎えていらっしゃることと思います。

こうした憊ただしい時期だからこそ、私自身「ありがとう」という言葉と、その根底にある気持ちを大切にしたいと思っています。

「ありがとう」は、漢字では「有難い」と書きます。

“あることが難しい”と書くように、本来は簡単には成り立たない貴重な縁や行為に対して、私たちが自然と抱く深い感謝の気持ちを表す言葉です。

私たち日本人が古くから大切にしてきた、相手への敬意や思いやり、その奥深い感性がこの一言に込められているのだと思います。

皆さん方が日々、市民の皆さまや同僚に対して交わす「ありがとう」の一言は、単なる挨拶ではありません。

それは、職場を「明るく、楽しく」する力になり、組織や社会の雰囲気を温かくしていく、とても大きな力があります。

小さな一言が誰かの励みになったり、穏やかな気持ちを生んだり、前向きな空気をつくるきっかけにもなるでしょう。

この一年、残されたひと月も、市民の皆さまの暮らしをより良くするために、ともに力を尽くしてまいりましょう。

庁舎内や市のイベントなどで私を見かけた際には、どうぞ気軽に声をかけてください。

秩父市のために働く同志である皆さんとお話しできることは、私にとって嬉しく、楽しい時間です。

寒さも厳しくなりますので、どうぞ体調にも気をつけてお過ごしください。

そして、皆さんの周りにあるたくさんの“有り難さ”に目を向けながら、温かい気持ちで師走を過ごしていただければと思います。

今月もどうぞよろしくお願ひいたします。